

長崎県におけるハイイロガン 12羽の観察記録

吉田敬太郎

〒859-0407 諫早市多良見町シーサイド 20-332

はじめに

ハイイロガン *Anser anser* の極東亜種, *A. a. rubrirostris* は中央アジア, 南ロシア, モンゴル, 北中国で繁殖し南中国, 北ベトナム, インドで越冬する (Miyabayashi & Mundkur 1999). 日本は本来の生息地から離れている為, 全国で観察記録はあるが少ない.

記録として 1976 年 11 月 23 日に鹿児島県出水市 (1 羽, 川路他 1987), 1985 年 6 月 9 日に北海道別海町野付崎 (2 羽, 日本野鳥の会野鳥記録委員会 1986), 1988 年 3 月 30 日に岩手県北上市 (1 羽, 日本野鳥の会野鳥記録委員会 1988), 1986 年 11 月 1 日に長崎県森山町 (1 羽, 日本野鳥の会野鳥記録委員会 1988), 1990 年 11 月 18 日に青森県鶴田町 (1 羽, 日本野鳥の会野鳥記録委員会 1991), 1995 年 12 月 14 日に青森県狄ヶ館溜池 (1 羽, 大阪 1996), 2000 年 3 月 20 日に香川県山本町 (5 羽, 佐々木ほか 2000) があり, 最近では未公認記録ながら 2009 年 11 月～2010 年 2 月に沖縄県名護市 1 羽 (<http://ozok.cocolog-nifty.com/test/2010/02/post-bbc9.html>), 2010 年 2 月に滋賀県長浜市湖北町 1 羽 (<http://suhyan.cocolog-nifty.com/blog/2010/02/post-00c6.html>) とい

う観察報告がある.

香川県の 5 羽, 北海道の 2 羽以外ではいずれも 1 羽の飛来である.

筆者は 2008 年 1 月 23 日に長崎県諫早市多良見町木床の喜々津川河口においてハイイロガン 12 羽の群を観察した.

日本のこれまで観察された記録に比べ, 12 羽の群の確認は非常に珍しいと思われるのでここに報告する.

初めて報文を書く筆者に懇切なご指導とご指摘を頂いた Strix 編集長上田恵介氏と副編集長三上かつら氏に厚くお礼申し上げます.

観察地

長崎県諫早市多良見町木床は大村湾の最奥に位置し, 東の諫早湾, 諫早平野とは低い丘陵地帯で隔てられている. また長崎市との境界まで 3km 位の距離である.

観察地は木床の北東側 (32°50' N, 129°59'E) 喜々津川河口付近である.

喜々津川の河口付近で川幅が 120m～150m と少し広がった所で, 東側に常緑樹の茂った小山とその下流側に住宅団地, 南側は小規模な住宅団地があり, 西側は草地でいずれも自動車道に面している狭い水域である. 人も車も少数ながら通る.

2010 年 10 月 8 日 受理

キーワード: ハイイロガン, 観察, 長崎県

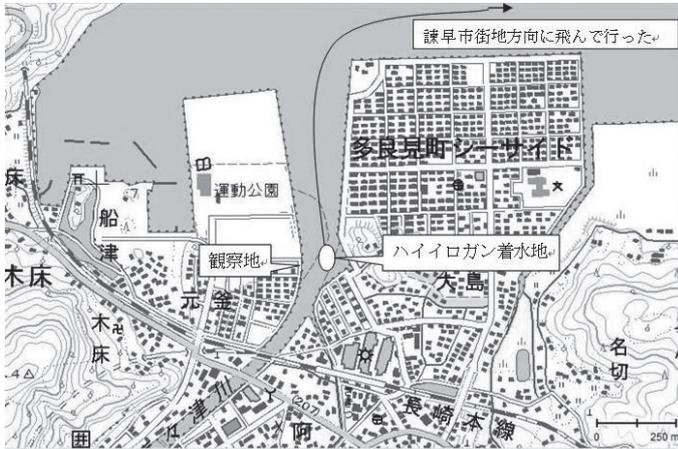


図1. ハイイログアン観察地

ここでは毎年ヒドリガモ、ホシハジロの小群が越冬している。

観察記録

2008年1月23日の10時45分頃、諫早市立多良見図書館裏の荒地（ハイイログアン観察地点から300m位、今は整地されている）に、当時飛来していたケアシノスリを見に行ったら、上空を巡回しているガンの群を発見した。

9時48分に、ガンが降りた所に到着すると12羽のガンが喜々津川河口のホシハジロの群の近くに浮かんでいた（図2、3）。双眼鏡で見たところピンクがかった嘴が印象的で、他には特徴は感じられなかった。

ガンの種類はとっさには判らず、マガンの幼鳥かもしれないと思い取敢えず撮影した。

立木の陰から観察したが、このガンは非常に警戒心が強くて、少しずつ観察地点から離れて行った。



図2. 最初の着水状況

ガンはホシハジロの群に混じることなく、だんだんとホシハジロの群から離れて、下流へと泳いで行った。群は最初ゆっくりとして寛いだ雰囲気だったが、移動中は統率された動きで、どんどん下流へ対岸へと離れて行き、10時20分突然一斉に飛び立った。30分強の滞在だった。

そのまま対岸の団地を迂回するように海上を東の方に飛び去った。

その後、数名で手分けしてガンが飛び去



図3. 12羽の群れ



図4. 厳つい顔のガンもいる

った先にある大村湾奥と東大川，さらに遠くの諫早湾干拓地の調整池を探したがガンは見つからなかった。

観察終了後，撮影した画像を図鑑（高野1982. 桐原ほか2000. Peterson 1974）と照合したところ，ハイイロガンと判明した。

ハイイロガンは皆同じような顔に見えるが，今回確認した群の画像を良く見ると厳つい顔と柔和な顔の鳥がいるようである（図4）。厳つい顔が何羽もいる。厳つい顔が全体を警戒しているようにも見えるし，群の中央で統率しているようにも見える。これらの個体はオスかもしれないが（Lorenz 1979），詳細は不明である。

当時の天候は普通の冬の曇空で，1月21日～1月23日の天気図を見ても特別な天候不順とは思われない。

ハイイロガンを見つけるきっかけになったケアシノスリは2008年1月25日まで滞在したのち居なくなった。

当地はハイイロガンの一般的な渡りのル

ートから大幅に西に外れているが，春に大陸系のいろいろな鳥の群が長崎市を通るように，ハイイロガンの群も北を指して渡って行く途中で偶発的に飛来したものと考えられる。今後も群の観察記録が出るのを期待したい。

引用文献

- 川路則友・安部淳一・高良武信・溝口文雄・松下義則・沼秀昭・今村克行. 1987. 鹿児島県産鳥類目録. *Strix* 6: 21.
- 桐原政志・山形則男・吉野俊幸. 2000. 日本の鳥550水辺の鳥. 文一総合出版, 東京.
- Lorenz, K. 1979. *The Year of the Greylag Goose*. Eyre Methuen, 199pp.
- Miyabayashi, Y. & Mundkur, T. 1999. *Atlas of Key Sites for Anatidae in the East Asian Flyway*. Wetlands International - Japan, Tokyo, and Wetlands International - Asia Pacific, Kuala Lumpur.
- 日本野鳥の会－野鳥記録委員会. 1986. 野鳥情報・観察記録1984.9－1986.7. *Strix* 5: 91.
- 日本野鳥の会－野鳥記録委員会. 1988. 野鳥情報・観察記録1988.1－1988.12. *Strix* 7: 306.
- 日本野鳥の会－野鳥記録委員会. 1991. 野鳥情報

- (1990.7—1991.6) . Strix 10: 316.
大坂知子. 1996. 出はった！出はった！日本野鳥の
会弘前支部報—初列風切. 76: 4.
Perterson, R. T., Mountport, G. & Hollmon, P.A. D.
1974. A Field Guide to the BIRDS of BRITAIN
and EUROPE. COLLINS, London. Physalia.
佐々木凡子・松村伸夫. 2000. 最近何か出てます
か？ Birder (6): 90. 文一総合出版, 東京.
高野伸二. 1982. フィールドガイド日本の野鳥. 日本
野鳥の会, 東京.

**The largest flock of Greylag Geese *Anser anser* recorded in winter, Isahaya, Nagasaki
Prefecture**

Keitaro Yoshida

20-332 Seaside, Tarami, Isahaya, Nagasaki 859-0407